

■調査箇所

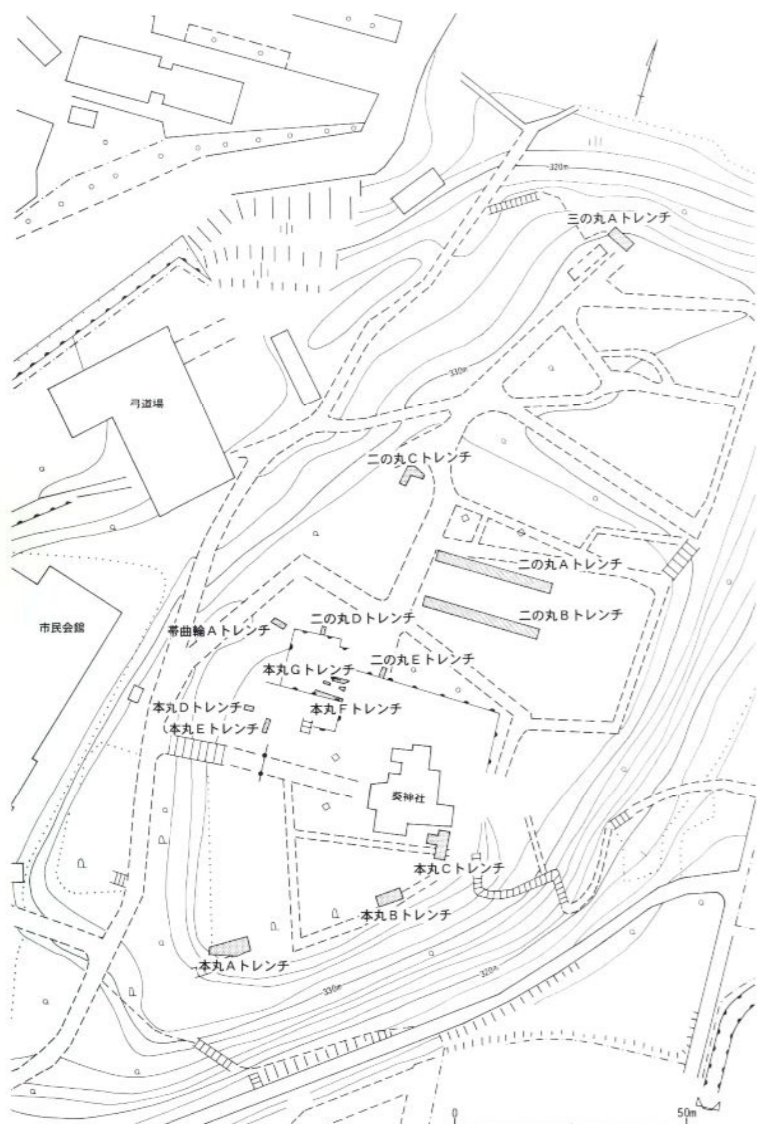


図4 調査区位置図 (1:1000)

発掘の結果確認された遺構

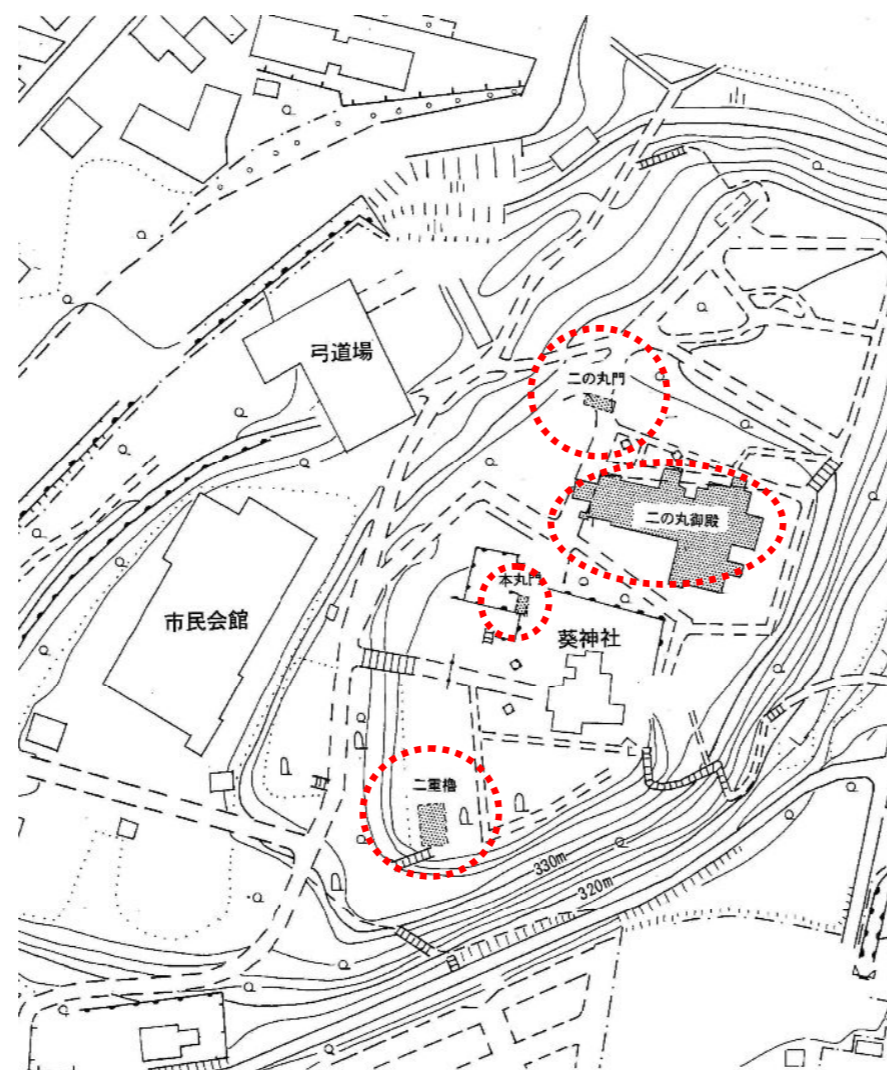


図19 確認遺構位置図 (1:2000)

二ノ丸門

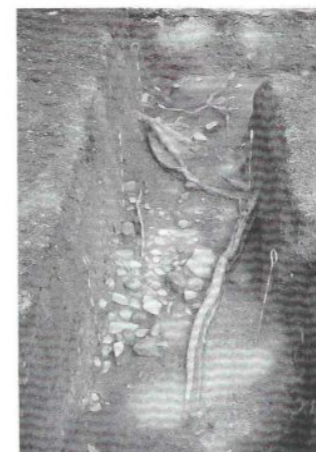


写真22 二の丸Cトレンチ遺構検出状況

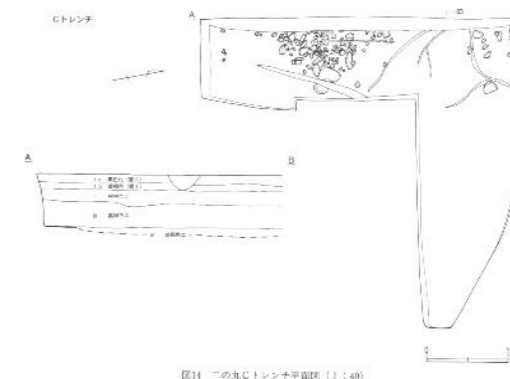


図11 二の丸Cトレンチ平面図 (1:400)

二ノ丸御殿遺構



写真20 二の丸Bトレンチ遺構検出状況



写真22 二の丸Cトレンチ遺構検出状況



二の丸御殿遺構

(2) 調査区の概要

各トレンチの概要一覧は下表のとおりである。

トレンチ名称	調査面積	確認遺構	発見遺物	備考
本丸 A	21.5	二重檜跡	陶磁器・土器・鉄貨	遺構確認調査
本丸 B	10	礎石・土抗・ピット	陶磁器・土器	遺構確認調査
本丸 C	16	不明	陶磁器・土器	石垣修理調査
本丸 D	2		陶磁器	石垣修理調査
本丸 E	3		陶磁器	石垣修理調査
本丸 F	5.5	石垣下端	陶磁器	石垣修理調査
本丸 G	7.2	石垣列・本丸門礎石	陶磁器	石垣修理調査
帯曲輪 A	7.2	石垣	陶磁器・鉄製品	石垣修理調査
二の丸 A	50	二の丸御殿跡	陶磁器・鉄製品	遺構確認調査
二の丸 B	50	二の丸御殿跡	陶磁器・鉄製品	遺構確認調査
二の丸 C	6.7	二の丸門跡	陶磁器・鉄製品	遺構確認調査
二の丸 D	2	石垣下端	陶磁器	石垣修理調査
二の丸 E	3	石垣下端・根石	陶磁器	石垣修理調査
三の丸 A	10		陶磁器・鉄製品	遺構確認調査
計	194.1㎡			

表1 各トレンチ調査状況

本丸門



写真14 本丸Gトレンチ推定本丸門礎石

本丸二重檜遺構

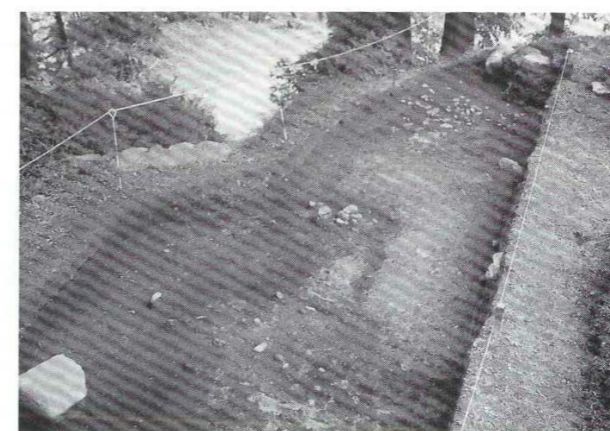


写真4 本丸Aトレンチ近景

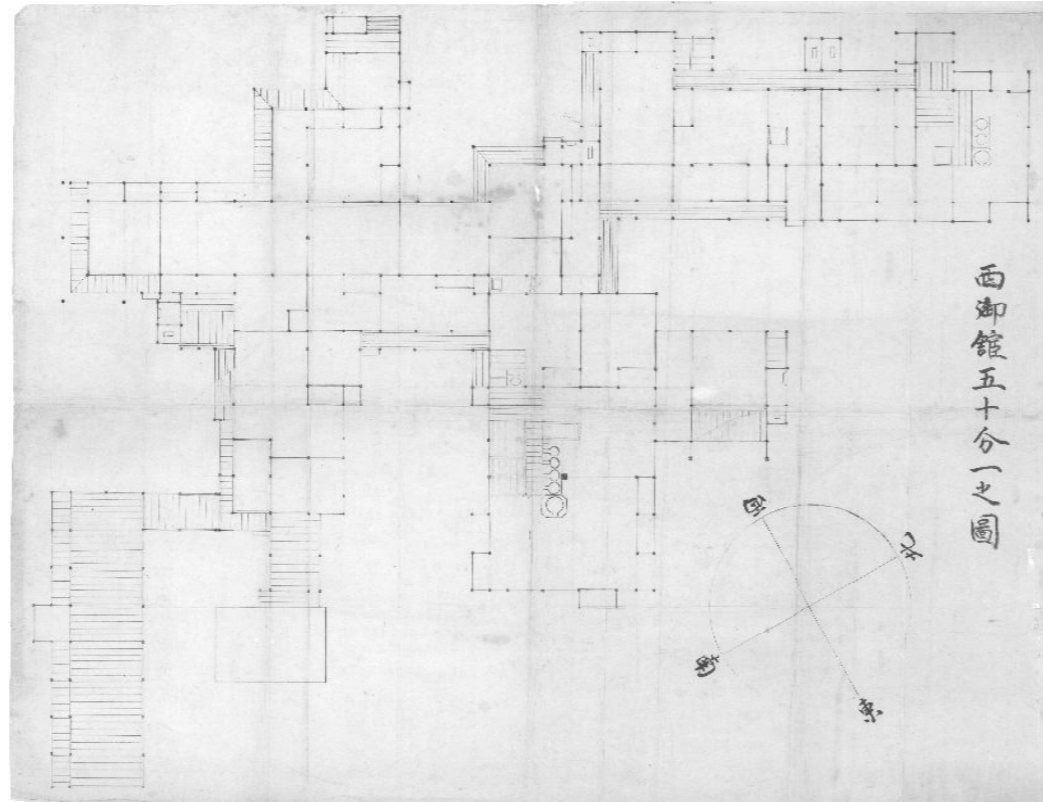


本丸二重檜遺構

資料3 平面図の残る建築物

平面図が残る建築物

西館図面等資料



二の丸御殿の遺構調査・図面等資料



飯山城二の丸の確認調査(平成13年)



佐久間雲窓筆 飯山城之図からの拡大

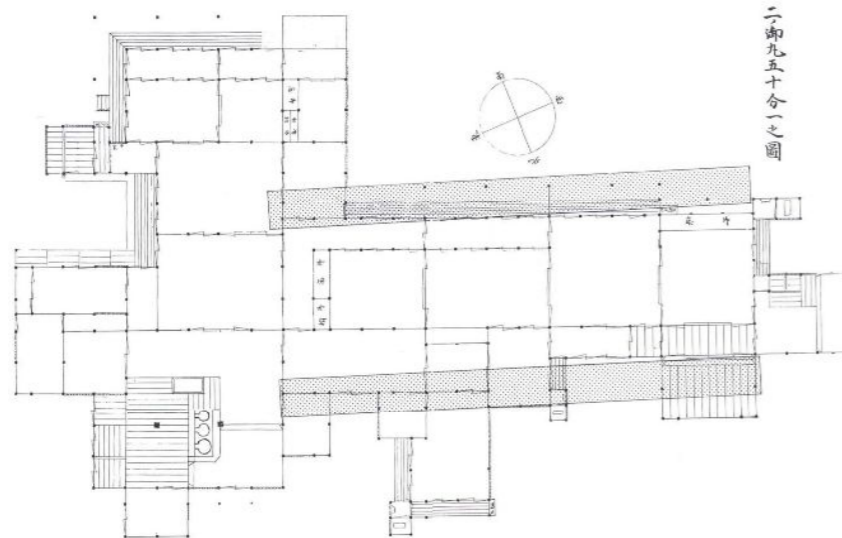


図13 二の丸御殿取り図及びトレンチ設定対照図(1:200)



写真18 二の丸Aトレンチ遺構検出状況

(出典：長野県史跡飯山城跡 遺構確認調査報告 2002年3月 飯山市教育委員会)

資料4 移築されたと伝承されている門の概要

門【移築されたと推測される門】

門	場所	門の種類 第2回委員会資料他	参考文献D
信叟寺山門	長野市古里	大手門 64*30	南大手門の可能性 南中門 本丸門 ニノ丸門 西館門のいずれか
山田家裏門	中野市江部	櫓門 30*20	
池田家表門	長野市田子	裏門 薬医門 34*24	南中門 本丸門 ニノ丸門 西館門のいずれか
旧丸山家長屋門	飯山市	寄棟造 間口11間4尺	南中門 西館門のいずれか
林家表門	中野市上今井	城門 切妻造 46*28	
妙専寺門	飯山市神明町	不明門 薬医門	
妙福寺門	飯綱町三水	城門 冠木門	
島田家土蔵	飯山市中条	城門門扉	

参考文献D:飯山城門遺構調査報告書 平成3年3月 信濃建築史研究室



山田宅(中野市)



信叟寺(長野市)



池田宅(長野市)

上記のほか、中野市鈴泉寺の山門も飯山城から移築されたものであることを把握。



資料5 櫓・門・塀などのわかる絵図面

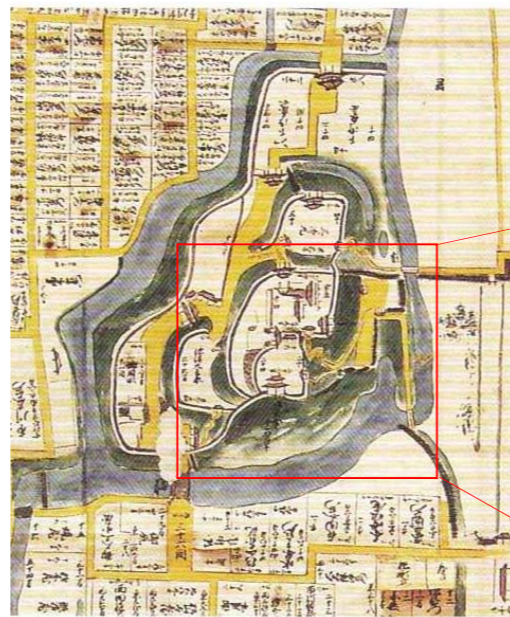
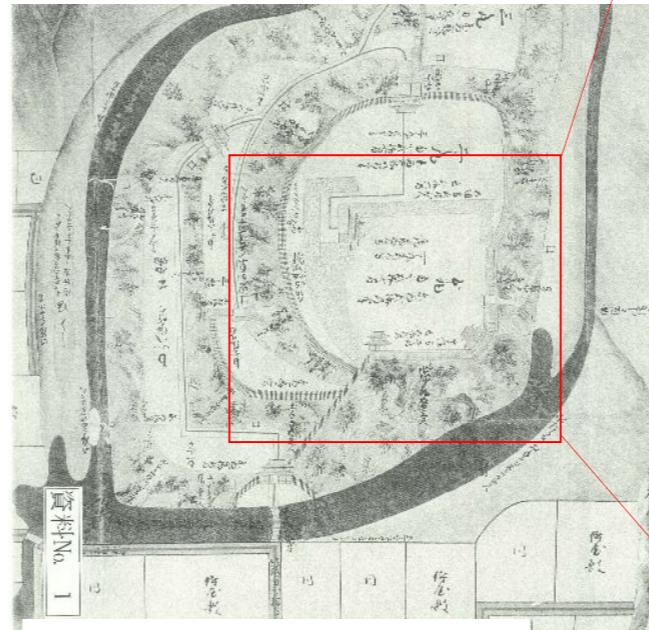
櫓・御殿等の遺構・詳細のわかる絵図

飯山城を鳥瞰で伝える絵図

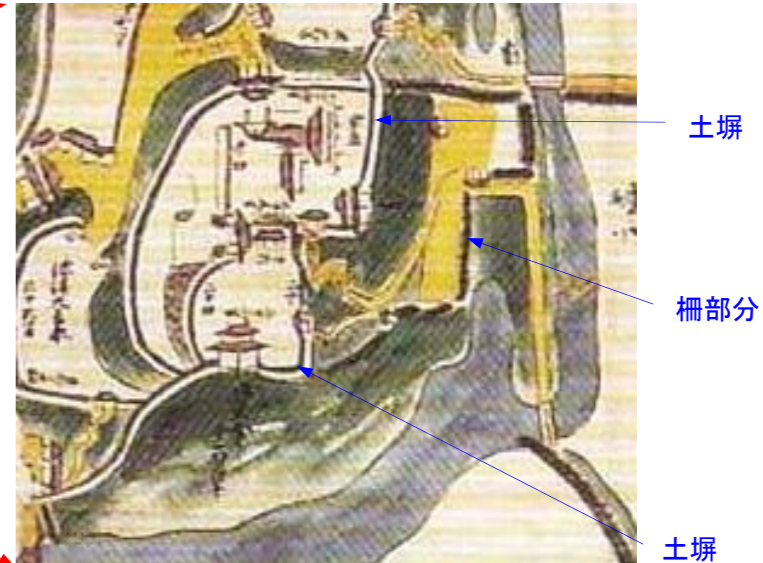


佐久間雲窓筆 飯山城之図
(市民会館 ギャラリー掲示資料)

石垣 塀 柵のわかる絵図面の一例 (本丸二重櫓付近)



正保の絵図(1645年頃)
 ・この時代は柵と板塀(本丸南と東側)で囲まれている。
 ・二重櫓は2棟あり、石垣は本丸と二ノ丸の間のほか本丸の西側でも確認できる。



松平時代城下町絵図(部分)
 ・坂下門から本丸にかけては柵であるが、そのほかの郭は土塀となっている。
 ・松平氏により確実に城が整備されてきた経緯が絵図から読み取れる。

3.4 整備区域の区分と施設整備計画検討上のポイント

整備を具体化していくには様々な制約やハードルがあります。その内容を考慮し、整備のための区域を3つに分け、それぞれの区域における今後の会議での検討のポイントを整理しました。

①区域 先行して整備を着手していくことが容易な区域

【整備のイメージ】

- お城らしさを回復させる基盤として各郭の形状を明確にするよう広場を整備。切岸の連続性を確保。
- (南大手門)→城門→三ノ丸→二ノ丸の順でめぐるルートを明確化

【主な検討のポイント】

- 市民会館移設後の城山の見え方・広場利用
- 切岸の復元
- 遊具の設置の検討
- 石碑の移設先・集約先
- エリアごとの植栽の見直し
- 三ノ丸の広場化の具体像
- 桜井戸、三年坂等の再整備と一帯の動線の整理

②区域

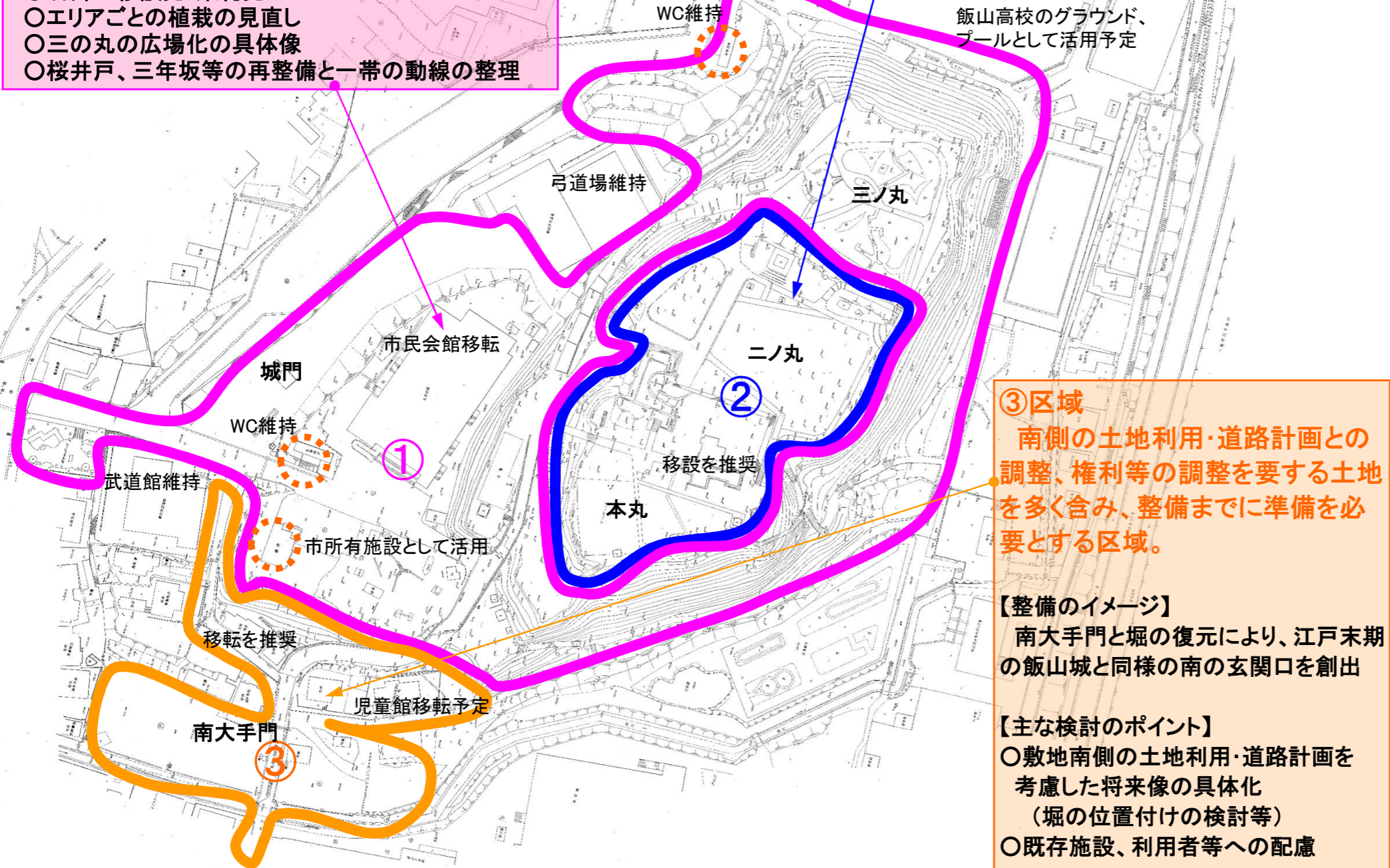
長野県史跡区域。現状変更には県教育委員会の許可が必要、また、葵神社関係者との調整が必要な区域。

【整備のイメージ】

- 櫓、門の復元
- 神社の移設
- 二ノ丸御殿跡の明示
- 白壁の塀等により城郭を明示
- 一部樹木の伐採

【主な検討のポイント】

- (整備コストのかかる)建築物の復元対象の設定
- 資料館的な発信拠点の位置
- 県指定文化財としての価値を高めるための段階的整備の方法



③区域

南側の土地利用・道路計画との調整、権利等の調整を要する土地を多く含み、整備までに準備を必要とする区域。

【整備のイメージ】

南大手門と堀の復元により、江戸末期の飯山城と同様の南の玄関口を創出

【主な検討のポイント】

- 敷地南側の土地利用・道路計画を考慮した将来像の具体化(堀の位置付けの検討等)
- 既存施設、利用者等への配慮

左記のような条件を踏まえ、今後の整備を段階的に進めるうえでの方針を以下に整理します。

飯山城跡の段階的整備に関する方針

(1) 条件の確認

○城は「堀」「郭」「石垣」「櫓等の建築物」で構成されます。そのなかでも基盤になるのが「郭」とそれを形づくる、堀や石垣です。

○飯山城は、荘厳な天守はなくとも県の史跡として位置づけられていますので、この郭の重要性が認識できます。

○一方で、建築物については、前項でも整理したとおり、復元に十分な史料を有するものが、御殿や藩主の館に限られており、史料の発見や情報の蓄積に時間を要する状況にあります。

○史実に沿った整備を進めることが重要です。

(2) 段階的整備の基本的な考え方

このことから、本書の冒頭でもふれた短期、中期、長期の段階をふまえた整備をすすめていくには、短期の整備では、**ベースになる曲輪、石垣といった土台部分の整備に力点をおくことが重要と考えられます。**

曲輪を中心に少し整備をすることで、飯山城の魅力が回復するという状況を、市民にわかりやすく作り出し、その状況のもとで並行的に史料集めを進め、遺構を整備していく方針とします。

(3) 短期・中期それぞれの取り組み

上記の点を踏まえ、短期(5年先まで)とそれ以後の期間での整備に対する取り組み方を、次のように整理しました。

1) 短期の取り組み

- ①・②の区域を中心に郭の形状を整える園地整備を重点的に展開する。
- ②・③の区域の整備に向け、城跡にかかわりの薄い施設の移転や移設などを並行で進める。
- また、全域を対象に史料や史実の収集・蓄積、整理、必要な発掘調査等を進める。
- なお、この段階で、建築物(とくに櫓類)の古写真などが収集できた場合は、整備を優先的に進めるなどの工夫を講じる必要がある。

2) 中期の取り組み

- ③区域の基盤整備
- ②・③の区域における建築物等の遺構復元・整備
- 堀など外周の整備